

日本タイヤリサイクル協会 第32回通常総会を開催

共同納入量は前年度から減少

では、共同納入量は約7万9千トンと前年度から約5千トンの減少だった。新規利用先としてリファイナラバー(株)(静岡

協同組合 日本タイヤリサイクル協会は24日、日比谷の松本楼で第32回通常総会を開催した。

事業報告

県)が増加したものの、廃タイヤ発生量の減少と、会員の廃タイヤ収集量の減少が響いた。

所(愛知県)、(株)ドイ産業(宮崎県)の7社が加入した。一方、(株)マツミ・ジャパン(茨城県)が退会し、

(株)栄タイヤ)の各氏が就任した。監事には小林伸好(株)柴崎商事)氏が就任した。

新会員として久香リサイ

正会員は39社となった。

懇親会では鳥海理事長

イクル(株)(香川県)、(有)長

役員改選では鳥海重利

が『今年度も基本理念通

元商会(徳島県)、(株)K I

理事長(株)トリウミ)が

り適正処理、タイヤ業界

CS(鹿児島県)、荒川産

重任、副理事長に金澤亮

との協調、再資源化への

業(株)(福島県)株ワカス

(株)国分商会)、加藤定

貢献をモットーに活動し

ギ(石川県)、(有)和成工業

伸(株)ブリヂストン松山

ていきます』と挨拶、J



鳥海理事長

タイヤセンター)の西氏、理事には伊藤諒亮(株)イトウ)、弓田大介(株)神鋼産業)、吉本恭宣(株)ヒカリワールド)、岩本昌久

ATMAの倉田専務理事が祝辞を述べ、時田環境部課長が乾杯の発声を行い、約2時間にわたって懇親を深めた。